

魔法のワンド 福岡セミナー

福島県立平養護学校 稲田健実

平成26年8月23日(土)

◎ 「伝わった」 喜びを実感することで
「伝えたい」という思いを拡げていく

福島県立平養護学校

肢体不自由特別支援学校

Hくん

- 中学部2年生 男子
- 脳性麻痺
- 知的障がい
- てんかん







選択のレベル

| レベル | 方略 |
|---|---|
| レベル1 2つのものを選択する | まず、Aが与えられている。その反応を観察する。次にBを与えてみる。その反応からどちらが好みか判断する。 |
| レベル2 2つの実物やシンボルを選択する（Yes/Noサインやものの名前の理解は必要としない） | 2つのものを呈示して、「Aが欲しい？」と尋ね、視線や手をのばす方向からどちらが欲しいか判断する。 |
| レベル3 2つの実物やシンボルを選択する（Yes/Noサインを必要とするが、ものの名前の理解は必要としない） | 2つのものを呈示して、「Aが欲しい？」と尋ね、反応を待つ。受容のサインの発信があればそれを与える。拒否、あるいは無反応ならば、「Bが欲しい？」と尋ね。反応を待つ。 |
| レベル4 2つの実物やシンボルを選択する（Yes/Noサイン、ものの名前の理解を必要とする） | 「Aが欲しい？それともBが欲しい？」と尋ねる。 |

H君の選択行動の評価

ただし、不十分さがある

- 実物を示されて直接選ぶ・・・○
- 実物の代わりに写真や絵カードを示されて直接選ぶ・・・○
ただし、不十分さがある
- 物や言葉で示されて、Yes/Noなどのサインで答えて選ぶ・・・×



選択レベルのアップではなく、H君の持っている選択の能力を活かして、できることを増やしたり、バリエーションを広げたりする

取り組みのねらい1

- ①本人が興味があり、選択するメリットを感じられる「場所の選択と移動」ができるようになる。
- ②その楽しみを元に、写真やシンボルを使って「目の前にない物を選ぶ」ことができるようになる
- ③ゆくゆくは言葉でも選び取れることをねらって、場所とシンボルと言葉の結びつきを促したい

取り組みのねらい2 (「DropTalk HD」を用いる)

- 音声フィードバックを一定にすることで、シンボルと音声、場所の結びつきを促す。
- 活動への興味を高める。



活動の計画1

(1) 「DropTalk HD」の画面のシンボルを選ぶ

→ 一画面のシンボルの数を段階的に増やす

(2) 移動する

→ ときどき、違う方向に進んで反応を見る

→ T字路で立ち止まって方向を聞く

(3) 行った先で「ここはどこ？」という質問に答える

☆ 昨年の9月より開始した

見える情報の量



活動の計画2

- H君にとっては、「自分で選んで（表現して）それが叶う」学習経験
- 教師にとっては、自分が選んだ選択肢と行き先が結びついているか、行き先についてどのくらい理解できているかを評価しながら進める

実際の様子



バスの所に行きたいという表出



実際に行きました



目的の場所、図書室に着いたとき



実践の評価 1

- 行きたい場所を選択する
- 行き先についての理解



できるようになった



場所とその場所の意味の理解



「指さし」での促し



言葉かけ無しでの「指さし」

実践の評価2

- 「伝えたい」という思いが広がったか？



- 拡がりつつある
 - 元々あった発語の数がより増えた
 - 指さしや「検温」を表すサイン、要求を表す「あー」という声が多くなった



「朝の会」のサインの表出



帰りの会で「バス」と表出



音声の表出「ちょうちょ」

「DropTalk HD」の活用

- 興味関心を持ちながら楽しんで取り組めた
- シンプルな音声が入君にとって理解しやすかった
- 思いが伝わるツールとして武器になりつつある

「これから」と「まとめ」

- 様々な角度からの検証 ← エビデンス
- iPadがあるときに、iPadがないとき、アナログとデジタルの違いということもふくめて、手立ての効果を明らかにしていく。

「これから」と「まとめ」

- 選択のレベルをきちんと捉えて、今持っている能力を適切に評価や検討をしながら、選択方法や選択環境を提示することで、学びを促し、コミュニケーションの機会や方法を拡げること
- その方略をまわりの人たちと共有することで、H君が誰でも、たくさんの人とストレス無くコミュニケーションできること

自分で移動できることが難しいH君



自分の思いを表出でき、願いが叶うことができた

受け身



積極的に

さらなるコミュニケーションの
拡がり

